



2016年5月30日

国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター

第133号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 第3回中南米地震工学研修がスタート
- 関西研修旅行レポート

研修 データベース

IISEENET (地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース (修士論文概要)

Bulletin データベース

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ (世界の地震被害)

地震カタログ (世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

Bienvenidos a Japón (ようこそ 日本へ) 第3回中南米地震工学研修がスタート

国際地震工学センター 横井 俊明、犬飼 瑞郎、山下 崇

第3回中南米地震工学研修開講式が、5月19日(木)午前11時15分～12時に、建築研究所講堂において開催されました。チリ(2)、コロンビア(2)、ドミニカ共和国(2)、エルサルバドル(3)、メキシコ(1)、ニカラグア(2)、ペルー(2)、ベネズエラ(2)からの8か国16名の研修生が IISEE 研修に参加します。



坂本建築研究所理事長

開講式は、2人の日本語＝スペイン語の通訳を介して行われ、建築研究所と国際協力機構筑波国際センターの幹部と IISEE 職員の紹介を皮切りに開始されました。次に、芳賀克彦 JICA つくば所長と、坂本雄三建築研究所理事長が歓迎の挨拶を行いました。

坂本理事長は、建築研究所の歴史と役割を紹介されると共に、ラテンアメリカの

研修生に「皆様をお迎えする準備は出来ています。」と述べられました。最後に、チリのプリエト・ビジャレアル・ジョエル・アントニオ氏が研修生を代表して挨拶を行いました。

本年4月には日本では熊本・大分、またエクアドルにおいてもマグニチュード7を超える地震が起きたばかりで、中南米は日本同様地震が頻発する地域ですが、耐震建築の技術普及が遅れており、地震による建物倒壊でこれまで多くの人的・物的被害が発生しています。本研修は、研修生が耐震設計・施工・診断・補強の技術と制度を、講義・構造実験・現場見学により学ぶことにより、自国での耐震建築の普及や、将来の地震被害の軽減に貢献することを目的として実施されます。



プリエト・ビジャレアル・ジョエル・アントニオ氏 (チリ)

なお、研修は、日・西語の通訳を介して全てスペイン語で行われ、スペイン語

の講義ノートも配布されます。また、応募要件には英語に堪能であることは含まれておりません。中南米研修に関する詳しい情報は iisee@kenken.go.jp までお問い合わせ下さい。

IISEE 一同、研修が成就することを心から祈っております。

i Buena suerte ! (がんばれ !)



論文募集

IISEE Bulletin は、現地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



楽しむのは今です。



開講式での集合写真

関西研修旅行レポート

(1) Mr. Amar BENFEDDA (アルジェリア、地震学コース)



関西への研修旅行は、地震についての科学的情報を得ることや、知識の向上だけではなく、日本発見の旅となりました。

深い歴史と現在との共存・混和は素晴らしいものでした。21世紀の最長の吊り橋、明石海峡大橋から、8世紀の歴史まで、それはまるでタイムトラベルのようでした。この感覚を私の英語で表現するのが難しいので、ウィキペディアの言葉を借り、“関西は日本の文化的・歴史的中心である”と表現したいと思います。

人と未来防災センターでは、地震の被害状況や、日本の方々が体験したことを感じる事ができました。上町断層帯、野島断層保存館、E ディフェンスは、社会を形成する人間、及び人間の作り上げた物を守るための減災に貢献している場所でした。

今回の研修旅行は素晴らしく、思い出に残るものとなりました。私たちの一生の財産となるでしょう。“アッラーは、慈悲深い人に慈悲深くあります”預言者ムハンマドより。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

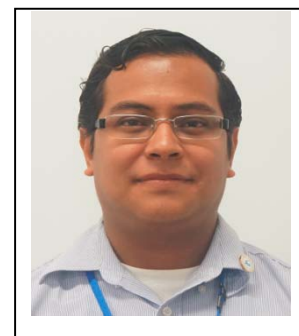
iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

(2) Mr. Greyving Jose Argüello Miranda (ニカラグア、津波防災コース)

研修旅行を通じ、私たちは、関西地区(神戸・和歌山・吉田町・沼津市)における、水門・防波堤・津波タワー・被害予想図等の災害防止及びその軽減のための対策について学びました。



更に、災害マネジメントについて、訓練を通してどのように住民に指導しているか、また、各地域にすでに組み込まれている対策、今後の防止計画についても勉強しました。

高潮・台風・津波などの災害に直面した時の経験談及び被害予想図の作り方とその使用法について学んだことも大変有益でした。

私が最も感銘を受けたことは、災害への備え方、そして過去の経験を生かして警告システムを向上させていることです。個人レベルでの事前対策、他都市への人の流出を防ぐための計画へも役立つと思うからです。

災害後の早急な復興プロセスや、不測の事態への対応策は、私たちの国の災害管理計画の質を高め強化するとともに、沿岸地域に住む人々の安全を守るための良い例となるでしょう。

(3) Mr. Amos Fimiamba (パプア ニューギニア、地震工学コース)



4月18日から21日にかけての関西研修旅行は、とても興味深く、すばらしい学習経験となりました。

大阪では、1926年に建設され、耐震性能向上のための改修工事が行われた、現行の都道府県庁舎として最も古い大阪府庁を見学し、神戸では、“人と防災未来センター(DRI)を訪れ、1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災のビデオや写真を通してこの地震が多くの人々にどれだけ大きな損害を与えたのか、そして震災

直後から行われた復興作業の手際の良さにも感動しました。

世界最大の振動台を持つEディフェンス見学では、どのようにして大型の装置を建築物の耐震性能を分析するために用いられるのかが理解できました。この研修旅行のハイライトである明石海峡大橋では、その高さをそこからの眺めで実感しました。

野島断層保存館ではありのままに保存されている断層をみて、そのすさまじさが記憶に深く刻まれました。京都ではいくつかの神社と城を訪れ、江戸時代に使用された建材と改修工事中に直面した難題や高度な技術について現代の建築物と比較しながら見学することができました。

ここに、このような素晴らしい機会を与えてくれた国際協力機構、国際地震工学センター、建築研究所の方々にお礼を言いたいです。